京城日報
昭和十八年八月三十日 月曜日
京城府中區太平通一丁目三十一番地 發行所 合資會社京城日報社

仇敵撃滅に勇往の秋
この忠魂に續け一億

【東京電話】勇戦上聞に達するの光栄に輝く山崎中將以下山崎部隊將兵の行動は皇軍の華ともにその武名は永久に國民の血潮の中に脈々として流れつゞけるであらうわれ〳〵はこの山崎部隊の盡忠の[illegible]ぬ覺悟をもつて忠魂に續かなくてはならぬ、この山崎部隊の仇敵撃ちてし止まむの烈々たる精神に直面し頭を垂れつゝもその胸中には『アッツの仇を』と大東亜戦争必勝の決意が沸りたつのである[illegible]防備強化を完からしめたことは勿論であるが、それ以上にその七生滅敵の敢闘精神は國民の一人一人の肺腑に深い感銘と決意[illegible]界を驚倒せしめまた敵米軍をしてさへ日本兵の精強さに畏怖せしめたのである、大東[illegible]つてわが國に決戰を挑み來りつゝある深刻苛烈なる様相を呈してゐる、アッツ島勇士の玉碎は如實にこれを物語る一齣であり[illegible]南太平洋における敵側のわが占領地奪回を目指しての執拗なる反攻企圖は連日同地域における彼我海空陸の[illegible]八月十二日には敵爆撃機はわが本土の北千島に來襲したのである、もとより一局部一方面の戰局の動向のみを見て一喜一憂す[illegible]である、正に大東亜戦争は決戰の段階にありこの勝敗の鍵はこの米英の總反攻企圖を完膚なきまで[illegible]てゐるともいひ得る、われらの一億國民はこの現實を直視しアッツ島に玉碎せる山崎部隊將兵の心を心としてますます鐵[illegible]勝抜くべく生産の増強、戦力の培養に一段と奮起總力を結集してこれに當るべきで[illegible]につづく國民の心である

英巡艦一隻撃沈

【ベルリン廿八日同盟】独軍當局は廿八日ドイツ潜水艦隊が北[illegible]より[illegible]る英艦隊と交戦、オーロラ級巡洋艦一隻を撃沈し他の巡洋艦一隻を大破した旨發表した、撃沈されたオーロラ級巡洋艦は排水量五千二百七十トンである

英機獨本土空襲 [illegible]機以上喪失

【ベルリン廿八日同盟】独軍當局の言明によれば廿七日夜英空軍はニユールンベルグを爆撃したが本爆撃に際し獨空軍部隊ならびに地上砲火は少くとも敵機六十機を撃墜したといはれる

日本民族魂の權化
山崎中將に國民が景仰

【東京電話】北邊の孤島に壯絶死と畏くも 天聽に達し山崎中將は 畏き[illegible]り武人として榮譽でなく、日本全國民の神としての榮譽に輝くものである

闘二旬を數へ、遂に群がる敵中に全員火の玉となつて突入壯烈なる戰死を遂げた山崎保代中將以下全部隊將兵の闘魂は『勝利かしからずんば死』の皇軍魂を遺憾なく發揮したものであり、その一死報國の盡忠精神を身をもつて示したこと破格の二階級を、米川大佐以下將校下士官兵に至るまで一階級進級の恩命に浴したことが一度發表されるや一億國民は再び五月廿九日のあの日を想ふ烈々たる熱血を胸に燃やし『アッツ島勇士につづけ』の聲は全國津々浦々に澎湃として捲き起されてゐる、玉碎部隊の忠魂はいまや北邊の孤島に留まるのみでなく、いまや一億全國民の血の中に生きてゐるのである、その崇高にして熾烈なる敢闘精神はまさに悠久三千年の歴史に培はれて來た日本民族の魂の權化といふべきである、山崎部隊將兵の榮譽は蹤

歴史をたづねるまでもなく、われ〳〵國民は大東亜戦争においてすでに幾多の軍神を生んだ、陸に加藤少將、海に山本元帥および眞珠灣に散華した横山中佐など九軍神、さらに今後も幾多の軍神をわれ〳〵は生み出だすであらう、これら軍神に對すると ひとしく山崎玉碎部隊に對する國民の崇仰の念はいよ〳〵昂揚され、早くも神と讃へる聲が起されてゐる

東京で開かれた情報關係業指導者錬成會では廿八日玉碎部隊の詳報の發表を知るや『全員壯烈玉碎を遂げたる軍神山崎部隊長以下二千の英靈に應へん』とて全員神前に誓ひ、また中將を生んだ郷里山梨[illegible]

一切を大君に捧げん
後藤翼賛會副總裁決意を表明

【東京電話】後藤翼賛會副總裁は山崎部隊の精神に應へ、盡忠報國の至誠を致すべき國民的決意を明かにした

山崎部隊ならびに部隊長山崎中將に感状を授與せられ、今般畏くも上聞に達せられた旨承知致し、去る六月北海の孤島アッツにおける同部隊玉碎の報を聞かされた時の氣持を一層強く致しました、あの時私どもの逆流する熱涙を振起したので[illegible]

わが陸鷲・萬縣猛爆(支那派遣軍報道部提供)

忽ち一機を撃墜
小癪の米機岳州に來襲

【漢口廿八日同盟】廿七日午後三時十分在支米空軍B四〇、四機が長安岳州東方廿五キロ附近上空に飛來したが三回[illegible](長安南方六キロ)方面の我が〇〇部隊の地上砲火により忽ちその一機を撃墜され、爾餘は長沙方面へ逃走した

獨ソ四百ヶ師が死闘
ウクライナ攻防戰重大局面へ

【ストックホルム廿八日同盟】赤軍夏季攻勢の重點たるウクライナ攻防戰が過去數日來最高潮に達し赤軍夏季攻勢の焦點たるウクライナ攻防戰はドイツ軍の反撃によつていよ〳〵激化してゐるが、赤軍の攻撃も侮り難く戰局はいよ〳〵重大局面に突入するに至つた、各種最新情報を綜合すれば廿八日現在の戰局は次の通り

一、ハリコフ西方の赤軍はキエフ、ラビヤンスク鐵道をポルタワ、クラスノグラード二箇所で切斷するため攻撃續行、ブオルスクラ、プショール両側間および六十キロの狹隘な戰線で激戰を展開してゐるが、オポシユニヤから南下する赤軍部隊と西方から迂回する一隊は廿八日ポルタワ包圍を大きく半圓形に包圍するに成功したやうだ、これに對しキエフ、ポルタワ鐵道に沿つて布陣したドイツ軍は猛反[illegible]

社説 アッツの忠魂に續く道

一

『謹つて玉碎して本分を全うせん』と返電し、北海の涯アッツの孤島に碧血をもつて氷雪を染めた山崎部隊長以下全員二千の忠烈の玉碎に、銃後一億が斉然としてその襟を正し、沈痛感泣米英の彼岸に對し誓を決し、血涙を呑んで〃我ら斷じてこの仇を報ぜん〃と誓つたのは五月卅日であつた。而してこゝに畏くも上聞に達し、山崎部隊長に對しては破格の二階級進級、米川中佐以下將校九十三名、下士官兵全員に對しそれ〴〵一階級進級の有難き御沙汰あらせられた旨陸軍省より發表せられたのであるが、聖恩のかたじけなさ洵に恐懼感激に堪へず、定めし忠魂も地下で感涙に咽び、愈々『七生滅敵』の至念に燃えて皇國守護の神靈として頭らけき力を日本の上に垂れることを信ずるものである。

二

この度の燦たる恩賞發表に次いで、山崎部隊長初めアッツ守備に當つてゐた全員二千の將兵が、如何なる戰陣の中に如何に戰闘に絶する死闘をもつて、兵員十倍裝備また優れたる大敵と戰ひ續け、生存者僅かに百數十名に至るや、玉碎突撃を敢行し、あくまで皇軍の精華を遺憾なく發揮したる盡忠血戰の詳報にも接するを得たのであるが、我等は唯々頭を垂れてその血戰十五日を想像し、更に深甚なる感激に胸を打たれるのである。而してその悲憤の血涙の中に幾多の崇高なる戰陣の事實を知らされ、決戰國民の忘念の上に、痛烈なる戰意を感ずるのである。

三

アッツ二千に向つて敵艦艇及び航空機による砲爆撃は愈々熾烈を極め、味方は武器彈藥耗盡甚だしく糧食また缺乏に瀕するや、巖石を投じ渇を嚙んで必勝の信念を堅持して激戰血闘二旬に及んだといふ。更にそれが一木一草の掩蔽物なき山上において敵の十字砲火の眞只中に曝されての死闘であること。而して最後全員玉碎を以つて盡忠の一誠を效さんとするとき、行動不能の傷病者達が自ら潔く己を始末したる壯烈、且つ通信關係者五十一名の非戰闘員までが勇士と共に劍をとり石をもつての決戰して、最後まで烈々たる日本精神に生き拔いた玉碎等、聞くものをしてその心臟をずきずきと刺す殉國の至情は、これ全く〃日本人こゝに在り〃を顯示したるものといふべきである。

四

殊に最後まで、一兵の増援一發の彈丸の補給をも求めずして、しかも殆ど全身を曝露しての戰、かくて〇〇航空基地より『氣象狀況よろし發進せんとす』と打電したるに對し、アッツ島上空の狀況の思し時は[illegible]さに玉碎も迫りたる苦戰の中にありながら、なほ友軍機を氣遣つて『見合せよ』と返電しつづけたるなど、何といふ崇高なる武人の面目であらう。我等は〃身心一切の力を獻し、從容として悠久の大義に生くることを[illegible]

王委員長と懇談
北支訪問の青木大東亜相

對日戰力増強
ノックス談話

上海、奥地の連繋
汪主席、清郷地區視察

記者團と會見

血の一滴まで戰へ
バー・モウ首相の熱辯

二個聯隊殲滅

單獨和平說
獨當局否定

ボリス三世逝去

芬蘭も和平否定

皇太子、皇位繼承

新帝即位布告發表

飛躍する戰貨調達活動
決戰下に躍進する日銀の業績

生育順調内地の稻作
早くも端境期出廻り促進對策

敵船四隻撃破
獨機シチリで活躍

百一機撃墜

英空軍爆撃

随想録

畏し北白川宮大妃殿下
山崎部隊長の光榮に御滿悦

【東京電話】殊忠至誠の皇軍魂に徹し二千の將兵とゝもに壯烈玉碎した山崎保代中將は高田部隊在勤の當時北白川宮大妃殿下より御下賜品と共に有難き御言葉を拜し、殊に畏き御身をもつて第一線で名譽の御戰死を遊ばされた故永久王殿下の御高徳を御偲び申上げつゝ御英靈に對し堅き決意を誓ひ奉つたのであつた、過ぐる昭和十六年七月故永久王御令妹美年子夫人の夫君立花種勝少尉(當時)前線出發の際宮家から竹田事務官を任地高田に差し遣はされ山崎部隊長に對し有難き御沙汰とともに故永久王殿下の御高徳を記し奉る書籍や御煙草などを賜ひそのうへ"上京の際は是非宮邸に參殿するやうに"との御やさしい御言葉まで賜せしめられたが、山崎部隊長はたゞ恐懼感激ことに故永久王殿下が金枝玉葉の御身をもつて第一線に御戰死あらせられたことを深く恐懼申上げてゐた際とて感泣せんばかりにこの光榮を拜受し御下賜の書物は將校集會所に備付け將兵とともに故殿下の御武勳御高徳をしのび修養の資と仰ぎ奉つてゐた、山崎部隊長はこの光榮に直ちに御禮言上方を依賴して竹田、北白川宮事務官に書翰を贈つたが大妃殿下には終始故永久王殿下を追慕し奉つてゐた山崎部隊長の壯烈鬼神を哭かしむる玉碎の武勳を聞召され、側近に對し有難き御言葉もあらせられたと拜承するが、また此度感狀上聞に達しさらに二階級特進の趣聞召され故部隊長の光榮をいたく御悦びあらせられたと拜承する

アッツ魂に續く銃後の決意

猛激米擊滅の激情灼熱と燃え熾くもアッツ島に赫々の偉勳を遺して玉碎した山崎部隊長以下の感賞燦と輝き、畏くも感狀天聽に達し"七生滅賊"の大精神はいま銃後に脈々と活き盡忠の至誠は萬代に響り、我等擧つてアッツの忠魂に續かんの決意を新たにしてゐる、精強世界無比の皇軍の精華を遺憾なく發揮し靑史に不滅の一頁を飾つた此アッツの魂魄はまた一億國民の血潮の中に滾々と交流し"玉碎もつて敵を擊滅"の旺盛なる闘魂と熱情を沸り立たせてゐる、いまや前線に呼應する"銃後"の言葉はない、銃後は大いなる幅と深さをもつ戰線に對してこれを直結する兵站となつてゐるのだ、戰線勇士に武器、彈藥、糧食、燃料、馬匹を送らねばならぬ生産戰の兵站戰線なのだ、この兵站を守る我々はまさに"玉碎で征く"決意と覺悟を更に更に堅固にしなければならない、アッツの忠魂は十字砲火の下兵員器材損耗するもいさゝかも屈せず、本分を果すため傷病者は勇ましくも自決して盡忠の鬼となり戰友とともに阿修羅の敵陣に玉碎したのだ、この忠魂は我々に數多の教訓を遺し燦然の勇氣と齒ぎしりする敵愾心を湧き立たせた"アッツの仇を討て""アッツの忠魂に續け"といまや玉碎で征かうの烈々の闘志は我々の生活を摑りあげてゐる、こゝに逞しきその決意を聽かう

玉碎に"明日"なし
今こそ一死殉國の秋
富岡地方遞信局長談

富岡地方遞信局長

富岡正光京城地方遞信局長は語る

"常在戰場"は私達の瞬時も忘れてならないことでありながら朝鮮に生活してゐる私達は御稜威の光被のもとに餘りにも惠まれた生活を營み、心ならずも戰爭を骨身に刻されるほどに感じない憾みがないでもないと思ふ、昨日アッツ島玉碎の詳報が報道され私は魂の底から"日本魂"の魂魄に搖り起されました、報道によれば軍人と同じやうに廿數名の遞信從事員が玉碎してゐることを思ふとき銃後遞信人のひたぶる思ひはこれ等アッツの勇士につゞき敵擊滅の闘魂を生かし、玉碎精神に燃えてゐます、私達は常に通信は軍備自體であるとの信念から保守建設に運用送達に日夜挺身してゐるのではあるがまだ〳〵身の至らなさを思ひます、防空通信の取扱が迅速であり完全でなければ敵百噸の高角砲も用をなさず生命の半を失ふといつても過言ではありません、今こそ私達は一死一生の秋を迎へ"私"を云々し"明日"を考へるときではない、上御一人を奉じ奉る決意を固め生きて呼びかけるアッツの魂魄に酬いなくてはならない

目覺めよ銃後の母性
福澤徳成女實校長語る

銃後半島の婦人がアッツ島の玉碎精神に報いる途は健全なる子供の教育に盡きると思ひます、身をもつて第一線に立てない今までの婦人は餘りにも物の考へ方が消極的であり、個人主義に流れる傾向が

これぞ生きた手本
半島同胞よ決戰に殉ぜよ
夏山府議談

[illegible] ありまして特に半島人はその生活に於いて家庭に於いて教育に於いてかういつた弱點 [illegible] と想ひます、今後は玉碎精神を肝に銘じ自分の生活を百八十度に轉換しまして前線將兵同樣な氣持で行かねばなりません、子供に勇猛心を養ふこと [illegible] 危險ですから、[illegible]

仇は討つぞ
白川君の感激

[illegible] 哭かしめた皇軍精神は世界に鳴る日本軍人であればこそ敢て決行したものだ、一死もつて皇國に殉ずるとは、これもとより帝國軍人の本領とはいへ敵國の捕虜になることを帝國軍人の恥となし"將兵の勇氣百倍擧つて玉碎して本分を全うせん"との最後的悲痛な決意を迭つて勇武なる玉碎を遂げ、大無邊なる皇恩に應へ奉つたことは崇高なる日本精神の現はれである

しかも敵をして心膽を寒からしめた、從つてこの玉碎精神は晴れの徴兵制に輝く半島二千五百萬同胞に對する眞に生きた教材となつたのだ、今後半島同胞が一層覺悟を新たにすることはもとより、皇國臣民としての生活態度と行ひを急速に改善して眞の日本人に生れ變らねばならないのだ

現在の我々の生活が果してこの崇高なる玉碎精神に副ふかどうかいま一度自分の生活を顧みて自覺反省して自ら日本人の人生觀を樹立すべきことだ、半島若人は進らくこれが上御一人に應へ奉る唯一の途であるといふ徴兵の性格をしつかり身に體して一死殉國の精神を選び、もつてアッツ島の玉碎精神に徴兵制實施に感激するだけでな [illegible]

徴兵制の實施により明年晴れの徴兵檢査を待ち佗びる京城 [illegible] く兵隊になつてあの憎い米英を擊ちのめしてアッツ島玉碎の仇を打ちたいです、それにより [illegible] 一層錬成に努め強い體を作らねばなりません、それから山崎部隊長を初め二千數百の玉碎した偉大な殉國精神を身に體して御奉公に精勵すると共に日本軍人の素質を養つて醜の御楯となる覺悟であります、私は明年の徴兵檢査を唯一の樂しみにして待つてをります、大丈夫です、必ず仇敵米英を太平洋の彼方に踏み潰してアッツの玉碎精神に續くとともに皇恩の萬分の一にも應へ奉らんと思ひます

玉碎を心の糧に
松岡氏談

輸送戰の現場に立つて日夜挺身する松岡京城驛長は語る

人が足りない、物が足らなくてやりきれないといふ者があるが不心得も甚だしい、銃後は殘つた人間でやらなければならない、暑過ぎるなどと戰爭最中にいへた義理ではない、輸送を擔當してゐるものが輸送がなくして戰爭があるか、輸送は勝利の道だ、型にとらはれた仕事は行屆かない、例へば車を押すとき手を突出し足を踏張つても力が入つてゐなければ何にもならない、力の打込みやうはその人間の面構へと汗を見ればよく判る

近頃やれといはれるからやるといふ者があるやうだがこれはひとり輸送陣ばかりではないと思ふが斷乎として排擊せねばならない、上に立つ者が荷物を擔いだからといつて陣頭指揮ではない、眞の陣頭指揮は現場に出て圓滑に進行するやう直接の指導監督をすることだ、總括的に處斷しなくてはならない、總ては戰爭目的にあるのだから小さいことにこだはる餘裕はないはずだ

戰時は足らないものを創意工夫し生かしてこそ前進がある、生かすことを知らない者は戰爭に負けてゐるのだ、私達の仕事は總て批判の眼で見られてゐるので常に第三者の立場から命じられてゐる仕事に合致してゐるか否か判斷し反省してゆかないと非難を受ける、"つらい"といへば急ぐ戰地の兵隊さんを想へといはれ、日夜新聞、ラジオ、雜誌等で教へられつゝ指導しなければ自覺出來ないやうでは最早や日本國民ではない、緩みがちな心を引締めるのは衝擊をうけたときしつかりと叩き込んで心の糧とすることだ、アッツ島の玉碎を知り私は現場の諸君にこれを涙で傳へ共にこの玉碎精神を心の糧として深く肝に銘じ輸送陣に挺身することを誓つた【寫眞=松岡驛長】

散華の父に續かん
遺兒保之君感激して語る

【横濱電話】去る五月廿九日"天地の神々よ、照覽あれ、この突擊の成果を"と壯烈鬼神を哭かしむる最後の決意を無電に託して傷つける寶刀を提げ、群る敵陣に殺到玉碎した父の姿が腦裡に去來する、畏くも二階級進級の恩命の報を聞いて横濱市鶴見區東寺尾町二反田一一三二番地の下宿先に馳せ歸り涙の中に報告する保之君の顏は心なしか微笑むかのやうだ、横濱高工航空機科一年在學中の保之君(二〇)は父玉碎の報を聞いた去る五月二十九日決然大日本學生航空隊に入隊し、目下優秀滑空機操縱の訓練を受けてゐるが、[illegible] 擊滅の闘志は日頃の [illegible] に燃え、身長五尺六寸、體重十六貫餘の堂々たる體軀も頼母しく、父の不撓不屈の性格をそのまゝ受け繼いで [illegible]『お父さんお喜び下さい、二階級進級の恩命に浴しました』と [illegible] の遺志に應へんと默々と撓まざる精進をつゞけてゐる、保之君は中將の榮譽に感激しつゝ左の如く語した

逝きし父が一階級昇進の恩命に浴し、偉大無邊なる皇恩の有難さにただ恐懼感激してをります、父はよき戰場に惠まれ幸福な武運の機會を得たもので、過去現在幾多の戰線で壯烈な戰死を遂げられた皇軍將兵の武功と勳も變るところはないのであります、私はただ父の遺志を繼ぎ忠烈なる皇國民として生き拔き父母の期待に背かぬやう最善の努力を續けたいと思ひます【寫眞=空に羽搏く山崎部隊長遺兒保之君(向つて左)=羽田飛行場において】=電送=

父に負けるな
烈々母が贈る激勵の便り

[illegible]

入れたいのは私の第一の希望でした、保久より聞きましたが思つたより公報が速い由、私も家の譽を入營へたりいろ〳〵と仕度を致してをります、學校はあすから始まるとの事留方のことは何んにも案ぜず、學にいそしみ、飛行操縱に專念致すやうに [illegible] は最早御國に捧げたものと思つてゐますからお國のため體を第一に注意なさいよ、何回もこんなことは申してゐますから耳にたこが出來てゐるでせうね、和子や正子はよく家事のお手傳ひをしてくれてよく間に合ひます、汽車の中でなんでも關西學生飛行 [illegible] の内田といふ方が山崎 [illegible] はよく知つてゐるとか、お前のことをいうて豪膽な辛抱強い男だとか、さすが父の子とのこと、たとへにも人樣からそのやうなお褒めの言葉を頂いたならしつかりやらねばなりませんね(中略)今夏歸省中はなにも御馳走しませんでしたがご免なさいね、九月中旬ごろ慰靈祭とか聞いてゐます、體を大切に勉強なさいね、男の子が二人あると人樣から羨まれますが、その度に滿足してゐます、保之、保久の二人が父に負けないどんな手柄を樹てるかと、では下宿の方に宜しく

八月二十五日 母より

保之樣

傷も忘れ拍手の嵐
白衣の勇士を慰問
武藏野樂團の一行

光榮ある徴兵に沸る半島に旺盛なる士氣を燃え立たせ"明日への糧"を與へんとする本社招聘の東京武藏野音樂學校大演奏會は初日の廿八日夜府民館に開催、空前の盛況を呈したがさらに"米英擊滅"に尊い傷を負つた白衣の勇士を心から慰めよう"と廿九日午後一時から龍山の陸軍病院を訪れ、慰問演奏會を行つた、國民儀禮に次いで本社安井支配人から"我々銃後國民のため尊い傷を負はれたことは我々國民の感激と感謝するところであります、一日も早く再起奉公されるやう"との挨拶につゞき"私共は今回滿洲、朝鮮を巡回しましたが兵隊さんたちの御奮闘ぶりに痛く心を打たれました、皆さんも早くもとのお體になつてお働きになるやう祈ります"と船橋[illegible]子さんが一同を代表して挨拶の後直ちに演奏に移り"海ゆかば""敵は幾萬"など混聲合唱から石井操さんの獨唱、森田貞子、鹽瀬延子兩孃の二重奏、向坂壽美子さんのピアノ獨奏は場内を埋めつくした勇士達に莊重雄渾の氣を與へ續いて安來節、伊那節等の番外餘興に鳴りも止まぬヤンヤの拍手は滿場を壓する、かくて第二部に入り、倉田芳雄氏の"空の神兵"に對する歌唱指導は聽衆渾然一體となつてソロモンに響けとばかり高らかに合唱さらに金海榮夏氏のバイオリン獨奏、東條翁さんのソプラノ獨唱あつて、最後に"波のすさび""美しく靑きドナウの流れ""木曾節""愛國行進曲"の混聲合唱をもつて意義深い慰問演奏を終り同三時半すぎ白衣の勇士達に送られて勇士の快癒一日も早かれと祈りつゝ同病院を辭した【寫眞=武藏野演奏團の慰問】

武藏野演奏會
絢爛の幕閉づ

半島徴兵制度實施、海軍特別志願兵制新設記念慶祝のため本社が招聘した武藏野音樂學校職員生徒の大演奏會第二夜は廿八日の初日にも增しての大盛況を極めて廿九日午後七時から府民館大講堂に開會、聽衆は [illegible] ましくも力強き大樂堂 [illegible] に明日の糧を得て、闘魂を培ひ萬雷の拍手を浴びて熱狂の裡に同九時半盛況を遂げて名殘り惜しくも閉會した

ワン公得意の力泳
きのふ漢江で軍用犬訓練

ザンブとばかり水中に飛び込んだ軍犬は渦まく奔流もなんのかは得意の犬かきでガンまた力泳する——戰場における軍用犬の果す役割は大きく前線將兵にも劣らぬ武勳を樹てゝゐるが帝國軍用犬協會朝鮮支部では軍用犬の資質向上を圖るため水陸連絡傳令訓練を廿九日午前九時半から京城漢江人道橋下流で開催した、參加した軍用犬はアーマン・フォンミツセ號(所有者西四軒町一七四澤本新五郎氏)デエナー・フォンウエステベルヒ號(龍山緑町山邊榮次郎氏)グロー號(北阿峴町三ノ二二一趙東元氏)クロード・フォン號(三坂通三三九ノ三岩鶴嘉雄氏)ユンダ・フォンケイボク號(新孔徳町新本殷信氏)の何れも優秀揃ひが五頭、國民儀禮に次いで協會朝鮮支部山田幹事長は軍用犬の實戰的訓練に終始するやう激勵の挨拶を述べたのち、審査委員長朝鮮軍望月獸醫大尉の競技上の注意があり直ちに訓練を開始した、出發の合圖で左岸からクロー號が水中に躍り込んでグン〳〵と泳ぎ切つて見事漢江を横斷するや三百米先の目的地まで矢の如く疾走する、次いでクロード號が續き五頭とも何れ劣らぬ強靱な體力と鋭敏な臭覺を發揮して訓練の成果をあげ午後一時終了した【寫眞=軍用犬水陸連絡傳令訓練】

鍛ふ在滿學徒
男子は大空へ、女子は看護婦

【新京特電】在滿日系學徒の教育の衝にある在滿教務部は決戰下北の護りの第一線に起つ日本靑少年學徒の非常時教育方針を研究中だつたが、この程具體案が出來上つたので直ちにこれを實行に移すこととなつた、それによると先づ學徒の鍛成は體位の向上と大空への關心を深めるため中等學校以上に對して滑空機を二、三機宛配布し隨時適性檢査を實施して、その性能に應じて高級訓練にまで及ぼしまた不適性者には自動車の訓練とか通信機の操作とか、他のものを選び直接戰力增強の面より國家の要求に應じ得る態勢を整へる、他方女學校の教育は滑空機訓練も大いにやるが同時に飽く迄も女性の特質を生かし空襲などの場合即座に看護婦の役割を果せるやう悉く決戰下に相應した教育を授けることとした

工事については、決戰食糧の應急增產といふ大局的見地から全的に本府の贊同を得た、何分彪大な經費と資材、勞力を要する事業とて早急實施如何は本府の意向に從はねばならない、しかしこれを實施することだけは間違ひない、從つて私としては可及的明年度から事業に着手出來るやう充分急を押して來た積りである、このやうな大規模な事業は獨り官邊だけの力ではなし遂げられない、關係方面の協力があつてこそはじめてなし得られるものと思ふ今後、[illegible] を願ひたい

童心にも感激
お祝ひの獻金相次ぐ

"半島に徴兵制が實施されてお目出度う"といふ内地人側からの獻金は引續き本社に寄託されてゐるが、これは半島の少國民をすつかり感激させ"僕達が兵隊さんになれるのを内地の人達がこんなにも喜んでお祝ひをして下さるのを默つてみてゐられない"と京城光熙公立國民學校六年の神田政忠、大谷光男兩君が級友に話しかけ學用品を節約したりお小遣をためたりして集めてゐるのを受持の先生が聞いて"それなら私も出さう"と應援し眞心こめた金が卅五圓に達したので、神田、大谷の兩君が代表して廿八日本社を訪れ"内地の方のお祝ひ獻金のなかに加へて下さい"と特に依賴して係員をすつかり感心させたが、それと入れ違ひに旭町一丁目東第二町會總代府會議員加納一米氏は副總代中村博、同喜多[illegible]三郎氏とうち揃つて來社"これは全町會の心をこめたものですからお受取り下さい"と淨財百廿圓五十錢を寄託した、その内譯は左の通りである

▲五十圓加納一米▲五十圓喜多[illegible]三郎、中村博、原田寅吉、柳谷榮尚、上川照德、高木勇、藤野禮吉、西本秀吉、立石宗米、越田一爾、山本惣作、佐藤由松、灰川秀治、越田爾三郎(以上町役員)▲廿圓五十錢一組一班太田清藏外十五名▲同二班井上しげ子外十七名▲同三班小山美子外十三名▲同四班見玉德次外七名▲五班田代豐年外九名▲二組一班黑澤松樹外八名▲同二班永尾福藏外六名▲同三班近藤喜三郎外十二名▲三組一班上口初枝外八名▲同二班加茂多喜子外十名▲同三班今井敬吉外十一名▲四組一班久保鐵男外九名▲二班山口キヌ外七名▲五組一班渡邊浩喜外七名▲同二班石川武外六名【寫眞=本社を訪れた神田、大谷の兩君】

機甲訓練所
見事に竣工

機械化國防協會朝鮮本部では京城城東區往十里町(滿京里驛南方三町)に新しく中央機甲訓練所を建設中であつたがこの程竣工、三千二百餘坪の操縱場も府内中等學校生徒の勤勞奉仕作業によつて竣工したので城東區杏堂町の舊訓練所を移轉し九月一日から行はれる第三回京城府壯丁機甲訓練はこの新中央訓練所で實施する

錦江問題は成功
山木知事歸來談

【大田電話】廿萬町歩の沃土をあたら荒廢に還すか——三千七百萬圓を以てこれを救ふか、決戰下穀倉半島に負荷された使命に應へ、錦江の治水、治山問題を引提げて廿四日忠南北、全北三ケ道の總意を代表して上城した山木忠南知事は四日間に亘つて總督初め政務總監、各局長と事業の促進策に關する具體的打合を行ひ、廿七日の晩歸任した、以下知事の土產話 荒廢せる錦江流域の農耕地の [illegible]

迫る航空記念日
映畫で士氣を昂揚

雲染む屍とならん闘魂を燃え立たせて大空への關心を昂める九月廿日の航空記念日を中心に十四日から全國に亘つて航空週間が華々しく繰展げられるが映畫を通じて記念週間の趣旨普及徹底を圖り、大空への士氣を昂揚するため朝鮮映畫配給社では全鮮映畫興行場に航空に關する映畫"決戰の大空へ""愛機南へ飛ぶ""基地の建設"などを配給し週間中上映させることになつた

衆議院慰問團來鮮

【下關電話】衆議院派遣皇軍慰問團北支部團長川崎克五郎氏ら一行六名は廿九日朝下關通過、朝鮮經由渡支したが一行は北京を振出しに山東、山西の前線將兵を約三週間に亘つて慰問する

府立圖書館開く

曝書並に點檢のため廿八日から休館中の京城中區南大門通朝鮮總督府圖書館は九月一日午前八時半から平常通り開館する

ラジオ 30日

朝 ▲六・三〇たゆまぬ錬和 江坂彌太郎 愛國詩▲七・〇〇戰時生活相談 我家の農業▲一〇・〇〇(大)幼兒の時間 勝田悦三▲〇・三〇パイプオルガンと合唱—日本橋三越本店より中繼—▲一・〇〇ピアノ三重奏曲第一番 樋口長朗▲四・三〇 [illegible]

夜 ▲六・〇〇少國民の時間 兵隊と豹 宮口精二▲六・三〇歌と樂隊 陸軍軍樂隊 指揮 陸軍々樂少佐 岡田國一▲七・五〇ベルリンよりドイツ通信▲八・〇〇浪花節 [illegible]▲八・五〇 [illegible]▲九・〇〇 [illegible] 伽倻琴散調と併唱(鮮語)沈相健 [illegible] 史物語(鮮語)京畿公立高等女學校長 [illegible]